



エラスムス・ムンドゥス計画

——高等教育分野におけるEU域外との交流

エラスムス・ムンドゥス計画

「エラスムス・ムンドゥス(Erasmus Mundus)」は、欧州の大学を世界に開かれたものにし、欧州以外の地域の学生に欧州連合(EU)で学ぶ機会を提供しようという強い願いから生まれた。この取り組みの背景には、これまで20年以上にわたって欧州の学生たちに出身国以外の欧州諸国で学ぶ機会を提供してきた学生・学者交流計画「エラスムス」の成功があった。

計画の名前は、15世紀から16世紀に活躍したオランダの学者で人文主義者のエラスムスに由来する。エラスムスは欧州各地を歩き回り研究を続け、当時欧州で活躍していたほとんどの知識人と交流を持った。

EU域外との大学院レベルの教育機関間の協力と、学生や学者の留学交流を促進するために欧州委員会が実施するエラスムス・ムンドゥスは、2004年に発足した。EU首脳は2000年3月に採択した「リスボン戦略」で、「2010年までに欧州を最も競争力と機動力のある知識基盤型の経済圏にする」という政治目標を定めたが、エラスムス・ムンドゥスはこの目標を反映

したものである。また、1999年に欧州29カ国が署名した「ボローニャ宣言」の根底にあるのもこれと同じ発想で、同宣言に基づいた「ボローニャ・プロセス」は、2010年までの「欧州高等教育圏(European Higher Research Area)」の設立を目標としている。プロセスでは、同時に複数の機関から学位を取得する「ダブルディグリー」や複数の教育機関が共同で1つの学位を付与する「ジョイントディグリー」の増加にもつながる学位の標準化とともに、教育や学問の質的保証も強調されている。

エラスムス・ムンドゥスが定めた具体的な目標は次の4点である。

- 欧州の高等教育の質を高めること
- 第三国(EU域外の国々)の大学院生や学者の欧州での学習や研究を推進すること
- EU域外の高等教育機関と構造的協力を進めること
- 世界の目から見た欧州の高等教育のイメージ、知名度、利用度を高めること

2004年から2008年までのエラスムス・ムンドゥス第1期(EM I)の予算は、修士課程コース設定、奨学金、そ

してパートナーシップ支援を合わせて2億3,000万ユーロだった。2009年から始まる第2期(EM II)は、同じく4年間(2013年まで)実施され、予算は10億ユーロへと大幅に増加される。

修士課程・奨学金・パートナーシップ

1年ないし2年の間、必要な経費をすべてまかなえる奨学金を受けて、大学院レベルの研究ができ、同時に旅行や新しい文化・人々との出会いも果たせたら、と考えたことのある学生も多いだろう。そんな学生には、エラスムス・ムンドゥスは素晴らしい機会を提供するものとなる。この制度を通じて、欧州委員会は大学院生に、少なくとも2つの欧州諸国で生活し、研究する機会を与えることができるのだ。

高等教育機関の支援

欧州中の、そして世界中の学生や学者を結ぶエラスムス・ムンドゥスは、「エラスムス・ムンドゥス修士課程」という質の高い教育課程の開設を支援している。各コースは、欧州の複数の教育機関がコンソーシアムを作り、実施している。これまで約400の機関が

日本の参加者からの一言①——

世界を違う角度から見る

プログラムに参加して最も良かった点は、異なる文化や考え方を持つ世界中から集まった同級生と机を並べて2年間勉強できたことです。エラスムス・ムンドゥスを他の学生にぜひ勧めたいです。日本には経験できない言葉の壁、文化の壁などを経験することで、世界をこれまでとは全く違った角度から見るようになるからです。また、充実した奨学金制度を持つことも推薦したい理由のひとつです。エラスムス・ムンドゥスの修士課程のように英語で授業を受けられるコースが欧州にもあることが広く知れ渡れば、今後出願者は増えると思います。

守本 剛(写真左から2人目)



日本の参加者からのひと言② —

魅力は国際的な学習環境

参加したいと思った理由としてはまず、関連分野の著名な教師陣を抱える授業のレベルの高さです。次に、このプログラムには、世界中から非常にやる気のある、熱心な学生たちが集まっていたことが挙げられます。エジプトやカザフスタン、ケニア、中国、南アフリカ、米国、もちろん欧州各国からも、全部で35カ国から50人以上の学生が参加していました。私が参加した2年間のプログラムの大きなメリットのひとつは、こうした国際的な学習環境にあると思います。さらに付け加えれば、2年の期間に欧州の2つの機関で学べるという、このプログラムの「移動性」の高さも非常に大きなメリットになっていると思います。



川村秀樹 (写真左端)

100あまりのエラスムス・ムンドゥス修士課程コースを設けた。英語で授業を行うこれらのコースは欧州各地でますます増える傾向にあるので、参加する学生はある程度の英語力を身につけておく必要がある。

学生や学者の支援

エラスムス・ムンドゥスは、世界中の学生および学者に対し、欧州の大学院での学習、教育、研究の機会を開く奨学金を提供している。大学院の学生であれば、誰でもエラスムス・ムンドゥス奨学金に応募することができる。奨学金は、選考によって最も優秀な者に授与される。これによって、学生は、権威ある学位を取得できるばかりでなく、生活費の心配をすることなく、貴重な国際経験を積んで視野を広げることができる。

年2万1,000ユーロの奨学金

欧州以外の地域からは毎年、修士課程1コースにつき約20人の学生と3～4人の学者にエラスムス・ムンドゥスの奨学金が授与される（全体として、毎年2,000人の学生 および400人の学者となる）。

これまで、欧州に留学するEU域外の学生には約6,000件の奨学金が授与されてきた。また、EU域外の学者には約1,000件の助成金が割り当て

られている。学生には、1年間のコースの場合2万1,000ユーロ、2年間の場合は4万2,000ユーロが提供される。学者に対しては、最長3カ月の期間に対し、1万3,000ユーロが支給される。学生や学者は、基本的にこれで授業料および旅費と生活費が全額まかなえる形となる。

応募方法

参加を希望する学生および学者は、自分が希望するエラスムス・ムンドゥス修士課程コースを実施しているコンソーシアムに直接応募する。それぞれの修士課程コースは、独自の応募方法を取り決めている。2009～2010年

度の応募締め切りは、ほとんどの大学で2009年1月末になると思われる。学年度は9月に始まり、翌年6月に終わる。2009年2月には各大学が選考を行い、受給者と補欠の2つの候補者名簿をブリュッセルにあるエラスムス・ムンドゥス事務局に提出。最終的な選考は、ブリュッセルで欧州委員会の担当官によって行われる。

日本の大学にも開かれている

日本の高等教育機関は他のEU域外国と同様、欧州の教育機関が創設した「エラスムス・ムンドゥス修士課程」のパートナーになる資格がある。こうしたパートナーシップを通じて、非EU諸国の高等教育機関は、欧州の大学とのネットワークを構築し、拡大することができる。また、これらのパートナーシップによって、エラスムス・ムンドゥス修士課程に参加するEU側の学生と学者も、欧州以外の地域のパートナー校で学んだり、研究したりする機会が得られる。これまでに、こうしたパートナーシップはすでに60組成立している。 



詳細は以下のウェブページをご覧ください(日本語)。

http://www.deljpn.ec.europa.eu/relation/showpage_jp_relations.academic.erasmus.php

日本の参加者からのひと言③ —

知名度と奨学金の高さは抜群

エラスムス・ムンドゥスに参加して一番良かったことは、その知名度です。プログラムがよく知られているため、海外にいる間も困ったことはなく、安心して生活ができました。査証(ビザ)の取得に関しても、「エラスムスですか」と聞かれて「そうだ」と答えると、手続きは問題なく進みました。6カ国で暮らし、その他にも8カ国を訪れた経験は、私にとってかけがえのないものとなりました。さらに、いただいていた奨学金は、研究助手として私が通常もらっている給料の倍の額であったことも付け加えておかなければなりません。



酒井倫得 (写真トラック内右端)